男子必見
保育・教育の現場で働く男たち！

一冊のノートが保育に悩み塞ぐ僕の心を変えた

保育園の目の前に広がるのは
東京ドーム五個分の広さを持つ公園。
走り回ったり、昆虫を探したりと、
自由に遊びまわる子どもたちを
優しく見守る一人の男性保育士がいた。
彼が経験した新人時代の苦悩と、
それを乗り越えた先に見えた、
男性保育士としての生き方に迫った。

江東区初の公園内保育園と調和する子ども主体の保育

保育園を出ると、緑鮮やかな芝生が目の前いっぱいに広がる。まるで子どもたちが自分の思うままに走り出せるように特別に用意された園庭のようだ。そこは全国にもまだ十数園しかない公園内保育園のうちの一つ、社会福祉法人みわの会が運営するＭＩＷＡ木場公園保育園だ。ここで働く男性保育士、相多謙治先生は、この園の環境がみわの会が実践する「子ども主体の保育」にマッチしていると話す。「木場公園は原っぱだけではなくて、昆虫広場と呼ばれている草木が生い茂っている場所や、生き物がたくさん住む池、アスレチック…等々遊びの環境がたくさんあります。その日に遊びに行く場所は子どもたちに決めてもらっているので、今では子どもたちの方が公園に詳しくなっています（笑）みわの会の保育は、子どもたちの『これ、やってみたい！』という気持ちを大事にしています。この公園は、子どもたちの主体性を引き出すにはぴったりの環境だと思います！」

障がい児施設を志した僕が改めて惹かれた保育の仕事

新卒でみわの会に入職し、今年で七年目の相多先生に、保育士を目指したきっかけを聞いた。「中学生のときの保育園への職場体験がきっかけです。どう子どもたちと接したらいいかまったくわからない僕に、『お兄ちゃん遊ぼー！』と寄ってきてくれて、子どもと関わることの楽しさをそのとき初めて味わいました」自らの原体験について生き生きと語ってくれた相多先生。「高校、大学は、もっと支援が必要な子どももいるのではないかと障がい児施設を主な就職先として考えていました。そんなとき保育園の話も聞いてみようかなと思い、たまたま出会ったのがみわの会だったんです。保育園についてはほとんど知識のなかった僕に、『保育園ってこんなところだよ』『こんな楽しさがあるよ』と採用担当の方が一対一で真摯に向き合って語ってくれました。ここでなら楽しく働けそうだと感じて入職を決めたんです」みわの会の職員の人柄に惹かれて入職した相多先生。しかし入職一年目にして大きな壁にぶつかったという…。

打ち明けられず抱え込み…体調を崩した一年目の苦悩

相多先生が最初に配属されたのは二才児クラス。子どもたちはイヤイヤ期のど真ん中だ。「社会人一年目で保育について右も左も分からない状態だったので、不安でどうしていいかわからなくて…。みわの会は『叱る必要のない保育』を掲げています。それを実践しようとしても、先輩だと、子どもたちも落ち着くのに、僕との関わりだとうまくいかないということが多く、『今の関わり方ってこの子の成長に本当に役に立っているのかな

立正大学 卒業
2012年4月 入職
相多 謙治
Kenji Aita

みわの会に新卒で入職し今年で7年目。支援を必要としている子どもの力になりたいと、一時は障がい児施設を志すも、みわの会に入職してからは保育園の楽しさに魅了されているそうだ。今年からMIWA木場公園保育園でクラスリーダーを任されており、3年目と4年目の後輩を抱え、いかに気持ちよく働けるかを日々工夫している。

…』と当時は本当に悩んでいましたね…。先輩もこまめに相談に乗ってくれていましたが、僕は変に遠慮してしまって、うまく吐き出せなかったんです」一年間はなんとか頑張った相多先生だったが、二年目になったときにとうとう体調を崩してしまったそうだ。子どもとの関わり方に対して真摯に考える、誠実な人柄だからこそぶつかった壁を、相多先生はみわの会でどう乗り越えたのだろうか。

先輩と相多先生をつなげた悩みを伝える一冊のノート

「二年目に体調を崩した時に、このままではいけないと思いました。みわの会は全クラス複数担任制なので、三年目は先輩の先生と二人で協力してやっていかないといけないなと感じていて…。そこで先輩が提案してくれたのが一冊のノートでした」共有ノートと呼ばれるこの当の二人で共有するためのものだそうだ。悩みを口に出せなかった相多先生に、文字なら悩みも伝えやすいだろうと、先輩が発案したものだった。「最初は文字にすることでさえ躊躇していましたが、思い切ってノートに悩みを書くようにしたんです。すると先輩は次の日には一つ一つ相談に乗ってくれて、『こんな些細なことでも相談していいんだ!』と思えるようになったんです。今では法人としても、若手の保育士が一対一で相談に乗るブラザー・シスター制度を導入しています。新入職員でも安心して働けるように制度も整ってきたので、さらに働きやすい環境になっていると思います」

みわの会には
男性職員もたくさん。
男子会も開催するなど、
男子同士の交流も
楽しんでいます!

女性の中で活躍するためにほいく男子に必要な考え方

周囲の助けを得ながら自ら働きやすい環境を作ってきた相多先生に、未来の男性保育士にむけて、メッセージをいただいた。「女性の割合が多い保育園という職場だからこそ、男性保育士の多さは重要かもしれません。みわの会の場合は法人に二〇名前後の男性保育士がいて、男子会が開催されたり、女性の職員も男女隔たりなく接してくれたりと、僕にとっては過ごしやすい環境です。あとは、父性が活かせる職場がいいかもしれません。僕の思う父性は、制限なく自由にやらせてみよう!という関わり方で、これってみわの会の『子ども主体の保育』とすごく合っているんです。法人の理念と自分のやりたい保育があっているからこそ、毎日の保育がすごく楽しいですね」そう語る相多先生の笑顔には、悩んでいた時の面影はなかった。みわの会について、男性保育士について、公園内保育園について…一つでも興味を持ったあなたは、ぜひ園見学に行ってみてほしい。

法人概要

社会福祉法人みわの会
(MIWA木場公園保育園)

求人情報はこちら

東京都江東区豊洲2-5-3-101
アーバンドックパークシティ豊洲COURT-C
☎03-5547-0075
設立:2003年9月

「我が子をゆだねたい」と思える保育園を掲げ、都内に6園、横浜に1園を運営。子どもだけでなく職員も楽しく成長できる環境を作るために、全社員が100%取得するリフレッシュ休暇やバースデー休暇などを整備。研修も充実しており、「美術」、「ファシリテーション」、「リーダーシップ」など多様な体験が準備されている。